

「浄、不浄」

2014年09月04日

マルコによる福音書7章1節～7節。ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た。——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとしておしえ、／むなしくわたしをあがめている。』」

絶対的な宗教的権威を持つエルサレム神殿当局は、民衆から絶大な支持と尊敬を集めている主イエスに律法違反を見出し、非難し貶めようと、ファリサイ派の人々と律法学者たちを送り込んだ。彼らは、主イエスと弟子たちの言動を見張った。すると、弟子たちの中に汚れた手で、食事をする者がいた。食事の前の手洗いは衛生上するのであるが、当時は、宗教上の「清め」の儀式として行っていた。昔の人の言い伝えを固く守って、決められた水の量、定められた手順で手洗いをし、不浄の身を淨に清めてから、食事をする決まりであった。また、市場から帰った時には、身を清めて食事をする、そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなどの律法が厳格に守られていた。ある律法学者が清めの手洗いをせずに食事をしたため、律法違反を厳しく咎められた。彼は、とある事件で投獄された。獄中で、飲み水として与えられた水を手洗いの儀式に使い、渇きで死んでしまった。律法違反の咎めを払拭するために、自らの死をもって、律法への忠実さを証しようとした。

主イエスの弟子たちが律法を守らずに食事をしたのを見て、律法学者たちは、ここぞとばかり非難した。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」主イエスは、彼らの偽善を預言者イザヤの言葉を引用して反論された。「この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとしておしえ、／むなしくわたしをあがめている。」

イスラエルの民は神を信じることを当然とした。ところが、神を信じることは具体的には、どう生きることか分からなかった。そこで、聖なる神は清い者に祝福を与え、汚れた者を呪われると説いて、汚れから清めへ、不浄から淨へという律法を事細かに規定した。その規定が、権威をもって民衆に強要され、苦しめるものに変質していった。主イエスは、口では神を敬い崇めているが、人間の言い伝えの戒めを教え、神の心から遠く離れていると反論された。神を信じ、隣人を愛して「共に生きよ」と教える律法が人を差別、抑圧する偽善に墮していたからである。主イエスと彼らの論争は、権力者に都合よく支配するために、律法が解釈、運用されることを示している。

他から犯されない人権と平和的生存権を保障した憲法の根幹より下位にある法律や法令が国民の生活と良心を痛めつけている現実が、何と多いことか。